

【やさしい日本語で 大事なところを まとめています】

ねん がつ いちぶ あたら
2023年3月に 一部 新しくしました

たぶんかきょうせい いみ
多文化共生の意味

たぶんかきょうせい こくせき みんぞく こと ひとびと たが ぶんかてき みと あ たいどう
多文化共生とは、「国籍や 民族などの 異なる 人々が、互いの 文化的ちがいを認め合い、対等な
かんけい きず ちいきしゃかい こうせいいん とも い 生きていくこと」 (そうむしょう
関係を 築こうとしながら、地域社会の構成員として 共に 生きていくこと) (総務省)

ししん あたら 新しくする りゆう
指針を 新しくする 理由

ねん がつ ながはまし がいこくじん かず にん
2022年1月の長浜市の外国人の数:3,677人

がいこくじんしゅみん さいきん じょうきょう
外国人市民の最近の状況:

-いろいろな国、在留資格、言葉の人が 増えています。

-働くために 来ている人が 増えています。

-日本に長く住んでいる外国人や、日本で 生まれ育った 子どもが 増えてい
ます。

-技能実習などの 資格で 東南アジアから 来ている人が 増えています。

-日本に 長く住んで、年をとってきた人が 増えています。

・ 日本人の数が減っていること、子どもが 少なくなって、年をとった人が 増
えています。外国人市民も 長浜市民のひとりとして 活躍することが 必要で
す。

⇒外国人の生活環境などが 変わりましたので、基準となる 指針を 新しく
します。

ししん やくわり
指針の 役割

ながはましそうごうけいかく
長浜市総合計画

ながはましたぶんかきょうせい
長浜市多文化共生の
まちづくり指針

いろいろな国の人が
いっしょに 生活しやすい
まちを作るため、指針を
決めて、多文化共生の
まちづくりをすすめます。

ながはまし ひつよう
長浜市に 必要なこと

こみゆにけーしょん
コミュニケーションについて

がいこくじんしゅみん しゃかい じぶん ちから せいかつ にほんご じょうず
-外国人市民が 社会で 自分の力で 生活するために 日本語が 上手になること。

-外国人市民が 分かる言葉で お知らせや、サポートを 受けることができること。

-長浜市の人が やさしい日本語を 話すこと。

せいかつ
生活について

にほん そだつ がいこく かんけい 子どもが 増えています。その子どもたちの べんきょう かんきょう
-日本で 育つ 外国に 関係がある 子どもが 増えています。その子どもたちの 勉強する環境を
ととの しょうらいのための じゅんび
整えて、将来のための 準備が できるようにすること。

-外国人市民の はたらく環境が よくなること。

がいこくじんしゅみん あんしん びょういん い げんき しあわ せいかつ
-外国人市民が 安心して 病院に行ったり、元気で 幸せに 生活できること。

-地震やおお雨など 災害のときのために 準備すること。

たぶんかきょうせい
多文化共生の まちづくりについて

がいこくじんしゅみん じんけん ほんり ぶんか ちがいについて りかい
-外国人市民の 人権(権利)や 文化の ちがいについて 理解すること。

がいこくじんしゅみん じちかい ちいき かつどう さんか
-外国人市民が 自治会などの 地域の活動に 参加できること。

こくさいこうりゅう でき 機会を つくって、がいこくじんしゅみん かつやく
-国際交流ができる 機会を 作って、外国人市民が 活躍できること。

すべての人が 尊重しあい、いろいろな文化が 息づき、
共に 支えあう まちづくり

日本人市民も 外国人市民も、一緒に 長浜に くらす人として お互いを 認めあい、
大切にします。そして、市民のみんなが 住みやすく、いろいろな 考えかたや 文化
を受け入れる「多文化共生の まちづくり」を めざします。

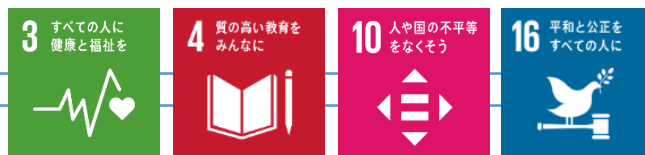


目標 ① コミュニケーションの 支援

外国人市民が 日本で 自分の力で 生活できるように、日本語が上手になる 環境をつくれます。たく
さんの人が「やさしい日本語」を使うように 広めます。また、ICT(ITを 使った コミュニケーション)を使
って いろいろなお知らせを 伝えたり、相談を 受けます。

【すること】

- お知らせを いろいろな ことばで 伝えます。
- ICTを 使って お知らせを伝えたり、相談を受けます。
- 日本語や 日本文化が 勉強できる 環境をつくれます。
- 日本語を教えるボランティアを 育てます。
- 地域で やさしい日本語を 広めます。

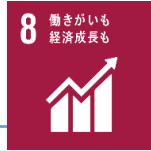


目標 ② 安心して 暮らせる 生活の手伝い

自分の国と 文化や 制度などが ちがう日本で、外国人市民が 安心して 生活できるように、環境を
整えます。

【すること】

- 外国人市民に 地震や大雨などの災害が 起きたとき どうしたらいいのか 伝えて、準備をします。
災害の お知らせを 早く 伝えられるように 準備をします。
- 外国人の子どもたちが 勉強する環境を 整えます。子どもたちが 自分の将来を 考え、目的をもつ
ことができるように 相談や 教える環境をつくれます。
- 外国人市民が 仕事がしやすい環境を 整えます。
- いろいろな社会保険制度や サービス、子どもを 育てるときに 必要な お知らせを いろいろな ことば
で 伝えます。外国人市民が 健康で 安心して 暮らせる 環境をつくれます。
- 外国人市民を 応援する団体などと 協力します。



目標 ③色んな人が活躍できる 多文化共生のまちづくり

外国人市民が地域社会のひとりとして、地域をささえる人として活躍できる環境をつくりま
す。そしてすべての市民がお互いのちがいを認めあい、いろいろな文化をもった外国人市民が活躍
することで、元気なまちをめざします。

【すること】

- 外国人市民が地域の活動などに参加し、社会のひとりとして活躍できる環境をつくりま
す。
- 外国人市民の団体の活動やコミュニティを助けます。
- いろいろな文化を持つ市民と協力して、地域を元気にします。
- NPO法人長浜市民国際交流協会と協力して、多文化共生のまちづくりをすすめます。
- 日本人市民と外国人市民が話し合っ、わかりあう機会をつくりま
す。
- ちがう文化や国際交流について理解する機会をつくって、地域で多文化共生のための活動をする
人を増やします。



◎ 多文化共生をすすめるために協力します

上の3つの目標のために、地域の団体や国、県、他の市・町などと協力します。